



## 第一部・猿橋物語

<19>

猿橋・猿橋。もう何百年か、人々が汗を流し、知恵をしぼつて今まで守ってきた天下の奇橋。昭和のなごみ、たちの手で、五十年前の江戸の姿が再現される日も、そう遠いことではない。

甲州街道の橋としての役目を終えてしまも、猿橋はまだレッキとした公道（市道）の橋。だが、大月市は今回の架け替えを機に純粋な「名脇の橋」と位置付け、人間以外の通行を規制する意向だ。

同じ名脇でも猿橋橋（山口県岩国市）の場合、観光客などから入橋料、つまり橋の渡り賃（大人一人百円）を取り、橋の管理、補修費にあてている。日常の管理費の面倒を見ない文化財行政のもじでは、それもアイデアだが、大月市教委は「昔から一般の道路で、『橋錢』などつたなへ時は聞かないのでもう料金には過剰的」。むしろ、さりげなく猿橋コーナーを設け、ひどいほどの民脂負担を作ることだ。

もう一つは、よく大きな市費を投じた架け替えの足跡を何らかの形で残す」と。市教委は解説によると、魔材の中には江戸のこころの度ようやく調査がつき、建設体し、保管中の古い橋の魔材、ものと見られるクリ材などもある。払い下げるもつて、金声魔材にはじつばかりだが、名前は書かれそうだ。

もう一つは、「やめ、それは」「一部でし」と、有料化には過剰的。り、さりげなく猿橋コーナーを設けたのは市教委の意図を理解する考え方だ。

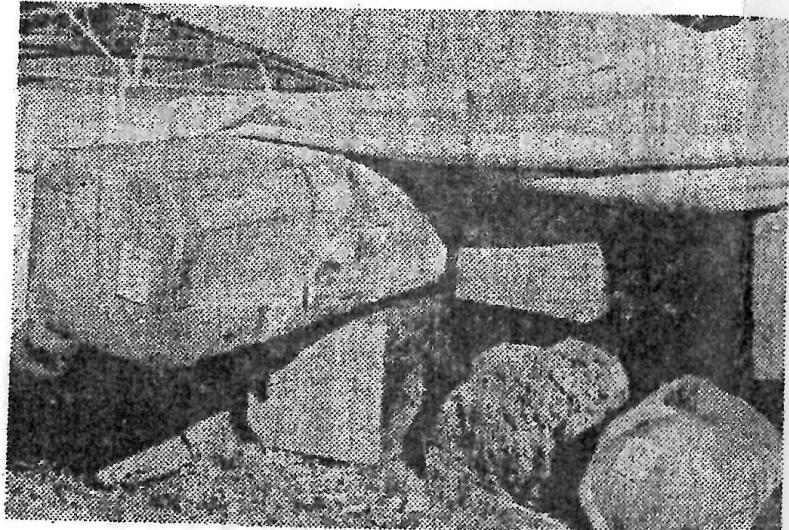
もう一つは、よく大きな市費を投じた架け替えの足跡を何らかの形で残す」と。市教委は解説によると、魔材の中には江戸のこころの度ようやく調査がつき、建設体し、保管中の古い橋の魔材、ものと見られるクリ材などもある。払い下げるもつて、金声魔材にはじつばかりだが、名前は書かれそうだ。

名脇・猿橋の最大の悩みは駐車場難。橋のたもとに觀光バスやマイカーの駐車ができるスペースがなく、せっかく訪れた觀光客も橋の奇構や渓谷美をゆづら観賞できない。猿橋離れの一因になっていた。

そこで市は五、六百㍍上流のアズクメ畠地付近の市有地を駐車場に開放し、こりから桂川べりを整備まで取組するプロムナードの整備を内々に検討している。これだと、駐車難は解消し、觀光客は渓谷と橋を同時に楽しめるわけで、地元にも実現を期待する声が強い。

## 民俗資料館作り 猿橋コーナーも

# 江戸の姿再現に夢



解体、保管されている魔材の山